

## ひだまり食堂

5月26日、コミュニティスペース ファンズさんのイベントライブ、「ひだまりの散歩道」に参加させていただきました。

ひだまり食堂のお弁当を食べてのランチライブは、朝からのお弁当作りも楽しく、ライブも素敵でした。メンバーさんもお客様の前でお店紹介のインタビューをうけたり、笑顔と感動の一日でした。



## えるうい 1 F 班

今年も梅雨が過ぎ、暑い暑い夏がやってきましたね・・・。  
そんな夏を乗り越える為のスペシャルアイテム!!!  
『わらびもち』の登場です。



毎年この季節になると、大好評頂いているこの『わらびもち』。  
作業所内で手作りしています。

店頭販売では、数に限りがある為、少し早めにご注文して頂ければ、ご入り用の個数分ご準備させていただきます。

## えるうい 野菜班 !

朝露が散りばめられた早朝

ひんやりとした空気と静けさが鼻にスーッと染み込んだ時に起きる現象はフィトンチッドという成分によって起こされるらしいよ。



## スプラウト

就労移行に取り組み始めてもうすぐ1年がたとうとしています。

最初は手探りでしたが、利用者さんの変化(良い方向)が見えて、取り組みの手ごたえを実感することができ、実りある

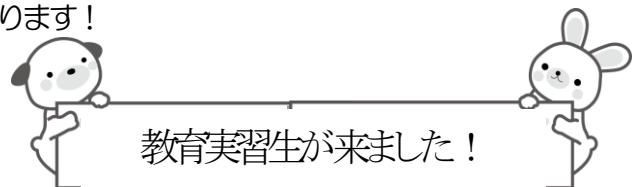


1年でした。今後も実感を活かして「計画」「実行」「振り返り」を共有しながら繰り返しあるのみです。

今年度も本人にとってよりよい職場環境に長く働けることができるように支援することを目的とし、大きく分けて「仕事に対する誠実さ」「コミュニケーション」「ビジネスマナー」「まわりと向き合う」「自分と向き合う」「報連相」



「集中力」を意識したワーク&作業で、職員も一緒になって日々成長していきますのでよろしくお願ひします。  
もちろんメンバーもまだまだ募集中です!障がいをお持ちの方で「就職に向けて頑張りたい!」という方は、ぜひ一度見学からでもOKですので、ご連絡お待ちしております!



6月15日~19日で安田光(やすだひかる)さんが教育実習に来られました!話し上手でしっかり者の安田さん☆また遊びに来てね♪

誰かが誰かを教育するのではない。自分を自分ひとりで教育するのでもない。

人は自らを教育しあうのだ。相互の交わりのなかで。 パウロ・フレイレ (1921~1997)

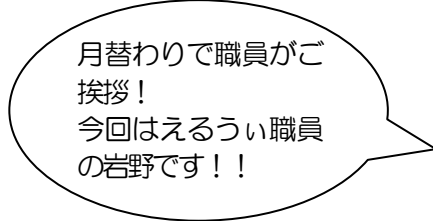
毎週金曜日、ポケットの小銭入れはパンパンになっています。もっとも「大銭」は無いのですが…その小銭入れには一円玉は10個、五円玉は2個、十円玉は10個、五十円玉は2個、百円玉は10個、五百円玉は2個は入れています。これは「識字」の教材なのです。私は週1回、金曜日の午前中は畑仕事（と言っても、草むしりやお手伝い、先日までは黒豆の皮むき…）をし、作業所に帰ってからは野菜配達の手伝いをしています。昨年未からは昼休みを使って「識字」を一緒に始めました。それは、仕事上お客さんとお金のやりとりや買い物など日常生活でお金をつかう必要性から勉強しようということからです。既に学校で学習してきたことですが、もう一度、基礎から一緒にやっています。学生時代とは違って生活経験を多くしてきているので、その経験を生かして

「教材」として「お金」をつかうことにしました。生活に身近なお金をつかって「十進法」の仕組みをタイルと併用して取り組んでいます。タイルというのは正方形で見ただけでも数量が分かり、10個たてに繋げて並べると1本のまとまりになり「10（じゅう）」。それを10本横につなげると正方形の1枚となり「100（ひゃく）」。それをたてに10つなげると「1000（せん）」と見て数量が分かるようになります。タイルをつけたり（足し算）、取ったり（引き算）操作して計算の仕組みを理解できます。このタイルは掛け算、割り算にも使っていきます。（この部分はまたの機会に…）貴重な休み時間を私と一緒に過ごしてくれる「仲間」に少しでも応えられるように現職時代よりも教材研究やプリント作りに励んでおり、そこに「生きがい」すら感じております。

ところで、私が「識字」に関わり始めたのは、会社を辞め養護学校で介助員として勤め、通信教育で教員免許をとり、養護学校からの異動先の小学校校区での「識字」に参加してからです。初めての「生徒さん」のおばあちゃんが「読み書き」が出来ない「口惜しさ」を語られたとき、その持たれた鉛筆は震え「書いて下さい」と私が渡したわら半紙に落とされた大粒の涙は「今」も私を撃ち続けます。それから、もう30数年になります。今も84才のおばあちゃんたちと週1回「生い立ち」を綴って貰ったり、俳句を作ったり一緒に勉強しています。また、5年前に尼崎に引っ越してきてからは近所の公共施設で月、木にボランティアで識字をさせて貰っています。昨年からは小中学生の学習支援にも関わらせて貰っています。現職教員の頃よりも体力的には忙しくなった感じはしますが、この与えられた「今」の為に教員をしてきたのだとさえ思えます。

冒頭のパウロ・フレイレさんはブラジルで成人識字教育を実践された方です。著書の『希望の教育学』（2001/11 太郎次郎社刊）の中に以下の印象的な文があります。識字に取り組んだ農民の方から貰った「花など咲かぬと思われているところに花を咲かせてしまう人がいるものです」の寄せ書きのことばを受けて「読み書きのできぬことは、農民たちにとっては、動かすことのできぬ運命のように思っていたのだった。しかし、かれら・彼女たちは読み書きを学んだ。読めないのは、けっして自分の所為ではなかったのだ。この人たちの学びがうまくいかぬとすれば、その理由は教師の側に、ぼくの側にある。」と記されています。「識字」は「教えるもの」「教えられるもの」があるのではなく、お互いの表情、眼差し、行為…を受け止め合って「主体」と「主体」が対等な関係の中で共同で創り上げていくものです。

まだ書かぬばならないことはありますが、最後に上野英信さんの一文でしめくくらせて頂きます。「『うたはむごにききやい。みちやめくらにききやい。りくちやつんぼにききやい。じょうふなやちやいいごっばっかい』（鹿児島里諺）歌はおしに聞くがよい。道はめくらに聞くがよい。理屈はつんぼに聞くがよい。五体五官のまんぞくなやつは口さきのいいことばかり……と。彼らの厚い沈黙の壁から「歌」と「道」と「理」を聞きとることのできるものは、いったいだれであるか……。」（『火を掘る日日』1979/3 大和書房刊「筑豊の根をたずねて」）2015/6/15 岩野



サニーサイドへのあたたかい賛助ありがとうございました！

尼崎市 T.T さま

伊丹市 I.M さま

尼崎市 H.K さま